

ルカ2章8～20節「羊飼いの御告げ」

クリスマスは救い主イエス様の御降誕を人々に知らせています。その知らせに対して人々はどのような態度でいるでしょうか。私たちはどのような態度でいるでしょうか。

イエス様は人々に知られずにお生まれになりましたが、その日、救い主がお生まれになったことを知ることができた人たちがいました。

1. 大きな喜び（：8～11）

救い主の誕生を知らされたのは羊飼いたちでした。イエス様がお生まれになった日の夜、「その地方」、ベツレヘムの近くで野宿をしながら、羊の群れの夜番をしていた羊飼いたちがいました。当時の人々の中でも貧しく、厳しい生活だったと思います。羊飼いは他のユダヤ人から軽蔑されていたということです。律法を守れない彼らは神の祝福から外れた者たちとみなされていました。真っ暗な夜に、野宿して、羊の群れの番をしている姿が、彼らの社会的立場や精神的な状態を象徴しているようにも思います。

しかし、そんな彼らに神は働きかけました。突然、あたりが明るくなりました。「主の使いが彼らのところに来て、主の栄光が周りを照らした」のです。10～11節。御使いは「(あなたがたに) 告げ知らせます」と言います。エルサレムの神殿で行われている礼拝から除外され、神の祝福がないと人々から思われ、軽蔑されている羊飼いたちに、「あなたがたのために救い主がお生まれになりました」と告げ知らせされたのです。

この「告げ知らせる」という動詞は、新約聖書で使われている他の多く箇所では「福音を宣べ伝える」と訳されています。まさに、ここで羊飼いたちに、救い主イエス様の誕生が告げ知らせされたことは、福音が宣べ伝えられたことでした。

この羊飼いの御告げは、マリアにそしてヨセフに告げられた御告げと似ていますが、違いもあります。その違いの一つは「今日…お生まれになりました」という知らせでした。

ルカは「今日」ということばを好んで取り上げており、救い主イエス様が与えてくださる救いと関連していることが分かります。たとえば、後にイエス様がナザレで安息日に会堂に入り、イザヤ書の中のメシアについての預言を朗読したことがありました。「貧しい人に良い知らせを伝えるため、主はわたしに油を注ぎ、わたしを遣わされた」というみことばを読まれた後、「今日、この聖書のことばが実現しました」とイエス様は言われました。ご自身こそ主に油注がれ、遣わされたメシア、救い主であると宣言なさったのです。

また、イエス様がザアカイの家に行かれた時、ザアカイが「私は財産の半分を貧しい人たちに施します。だれかから脅し取った物があれば、四倍にして返します」と真実な悔い改めを表したとき、イエス様は「今日、救いがこの家に来ました」と宣言なさいました。

そして、イエス様と並んで十字架刑にされた犯罪人の一人が「イエス様。あなたが御国に入られるときには、私を思い出してください」と信仰を告白して救いを求めたとき、イエス様は「まことに、あなたに言います。あなたは今日、わたしとともにパラダイスにいます」と救いを宣言なさったのです。

このようにこの福音書では、「今日」が神の恵み深い救いの時であると語られています。

マリアとヨセフへの御告げとの違いのもう一つは、生まれる子どもに与えられている称号についてです。「救い主」「キリスト」「主」という三つの称号がイエス様に与えられています。

生まれた子どもは「救い主」とであると告げられました。ローマ帝国では皇帝が「救い主」と呼ばれました。しかし御使いは、皇帝ではなく生まれた子どもこそ民を救い、治める「救い主」とであると告げたのです。

また、生まれた子どもが「キリスト」とであると告げられました。旧約聖書で預言されていたメシアであるということですから。生まれた子どもは神が特別の働きのために油を注ぎ、遣わしたメシア、キリストであるということです。

そして、生まれた子どもは「主」とであると告げられました。旧約聖書の中にあるイスラエルの神の呼び名である「主」を指しています。御使いはイスラエルの神、主が人となられてお生まれになったと告げたのです。イエス様はまことの神であり、そのお方が人となられたのです。

2. あなたがたのためのしるし（：12～14）

御使いは羊飼いたちがその救い主を見つけると言います。そして、そのためのしるしを教えます。12節。宿屋にはマリアたちのいる場所がなく、お生まれになったイエス様は飼葉桶に寝かせられました。仕方なくそうしたのでしょうけれども、それが特別のしるしとなりました。そのしるしによって救い主を見つけられることができるということです。

それだけでなく、救い主であることの意味を象徴的に表しているということもできるでしょう。お生まれになった救い主はイスラエルの神、主ご自身であり、天から遣わされたキリストですが、そのお方が人となり、みどりごととして生まれ、飼葉桶に寝かせられるほどにへりくだられたのです。どのような人でも、救い主イエス様は出会ってくださるのです。

さらに、しるしに表されている意味が明らかにされることになりました。それは、突然夜空に現れた天の軍勢とその賛美によってです。13～14 節。天の軍勢とその賛美は、主でありキリストであるお方の本来の栄光を表しました。そして、救い主イエス様によって、神の栄光が表され、地の上で平和が与えられるのです。

このメッセージは聖書全体で語られています。神の御子イエス様が、神のあり方を捨てて、人となられました。そして、罪のない方が人のすべての罪を代わりに負って十字架で死なれました。さらに、死で終わらず、三日目によみがえり、天に昇られました。そのイエス様によって、神の栄光が表され、人々に平和が与えられます。そのようなイエス様のお姿のすべてが救い主のしるしとして私たちに与えられています。

そして、救い主のしるしを受け止め、イエス様が救い主であることを信じる人は、罪の赦しを受け取り、救われると聖書に約束されています。御子イエス様の贖いによって、信じる者も神の子どもとしていただけます。罪の中にあって滅びに向かっていた者が、永遠のいのちに生きる者とされます。神に背を向けていた者が、神の御前にひれ伏して、心からの礼拝を献げる者となります。このような神との平和を与えていただけます。そして、周りの人たちとの間にも平和をつくる者としていただけます。福音を宣べ伝え、主の恵みを証しし、愛をもって人々に仕える者となります。そうして、神の栄光を表し、地の上に平和をつくる者となるのです。

3. 羊飼いたちの応答（：15～20）

御使いたちの姿が消えた時、彼らはすぐに行動を起こしました。15 節。彼らは御告げを信じて、すぐに応答しました。自分たちのためにお生まれになった救い主に、すぐにお会いしたかったのです。

この彼らの態度から、神のみことばを聞いたら、そして神のみこころを知らされたら、信じて、すぐに応答するようにと教えられます。聖書の他の箇所「今日、もし御声を聞くなら、あなたがたの心を頑なにしてはならない…『今日』と言われている間、日々互いに励まし合って、だれも罪に惑わされて頑なににならないようにしなさい」（ヘブル 3：7～8、13）と勧められています。私たちも、みことばを聞いて教えられたら、時を逃さずに応答したいと思います。

羊飼いたちは話し合い、そして実行しました。16 節。彼らは救い主にお会いすることができたのです。みことばを信じて、応答する者は、みことばが確かであることを経験することができます。私たちは直接イエス様を見るわけではありませんが、聖書に約束されていることを信じるなら、その通りの救いがイエス・キリストによって与えられることを経験することができます。

羊飼いたちは自分たちが経験したことを話しました。17 節。神のみわざを経験するなら、それを誰かに話さずにはいられません。私たちも救い主イエス様を知り、信じて救いをいただいたことを話さずにはいられないのです。自分が経験した神のみわざを人に知らせることは自分にしかできません。

こうして、羊飼いたちは神を賛美しながら帰って行きました。20 節。帰って行った羊飼いたちの生活は、それまでと変わらないものだったかもしれません。しかし、彼らは神が恵みによって与えてくださった救い主との出会いに基づいて生かされていったことでしょうか。神を賛美する生涯だったことでしょうか。

彼らと同じように今も、「あなたがたのために救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです」という福音の宣教を聞き、それを信じて受け入れる人たちは、みことばのとおり救い主にお会いし、神を賛美することができるのです。

救い主の誕生の出来事とその意味は聖書によって今も告げ知らされています。これまでキリスト教と無縁であったという人にも、あなたのために救い主イエス様はお生まれになりました。闇が覆っているような状況の中にいたとしても、その中でも主の栄光が照らし、大きな喜びが告げ知らされます。イエス様によって神の栄光を仰ぎ、神との平和をいただき、人々との平和をつくる者となります。

今日、この救い主イエス様を受け入れ、救いを受け取っていただきたいのです。みことばの通りであることを経験することができます。イエス様の恵みによって生きていくことができます。神を礼拝し、賛美しながら生きていくことができます。私たちの救いのために人としてお生まれになった、神の御子救い主イエス様を信じましょう。